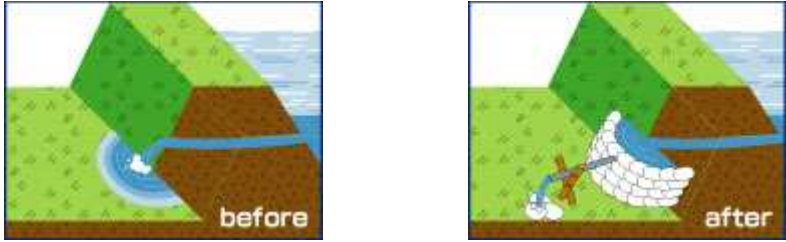



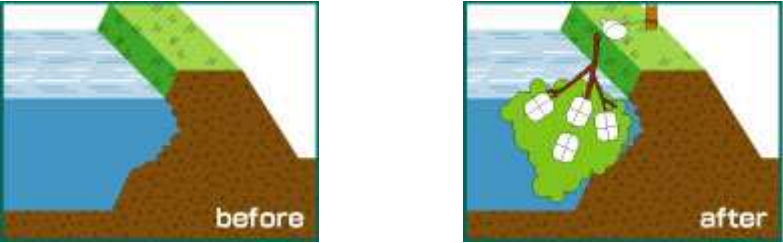
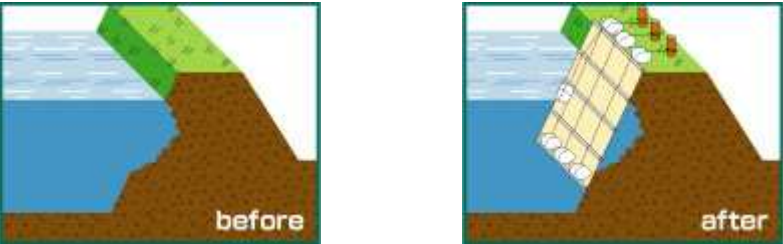
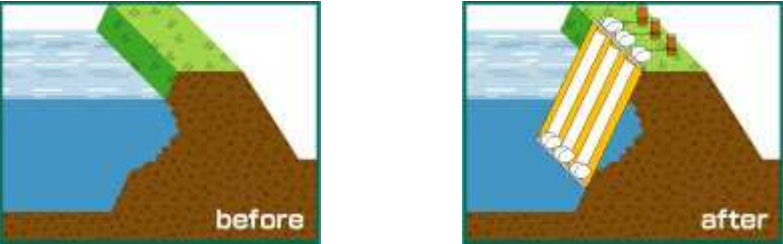
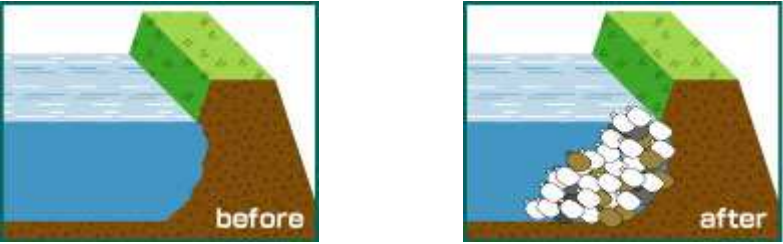
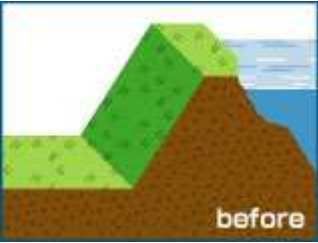
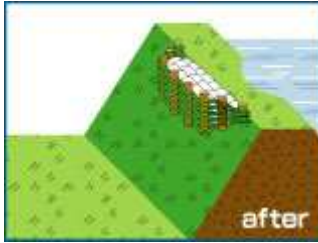

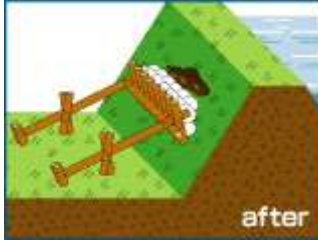
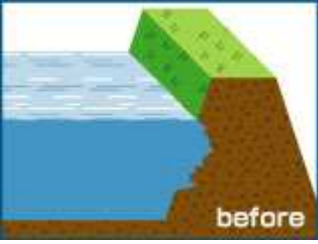
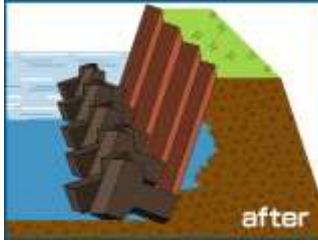
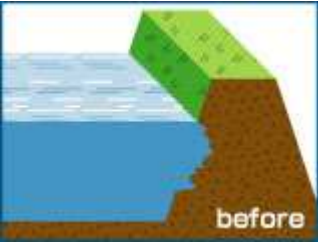
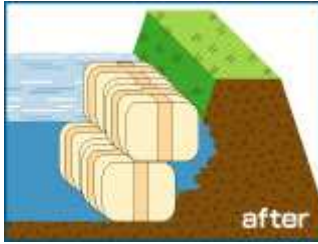


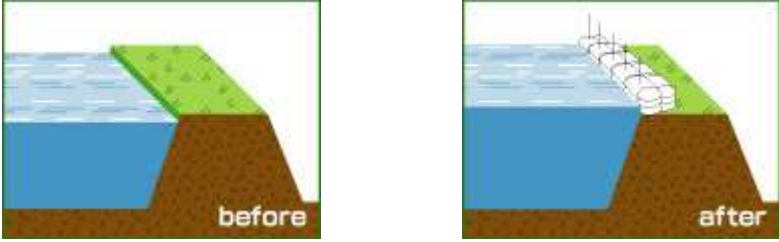
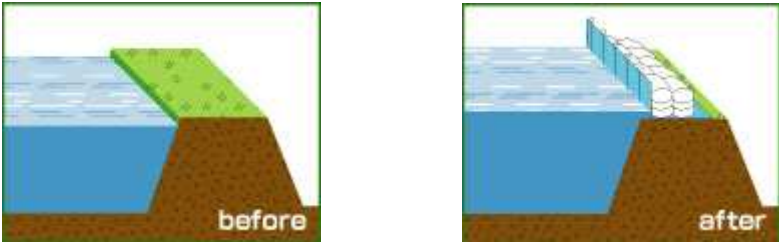
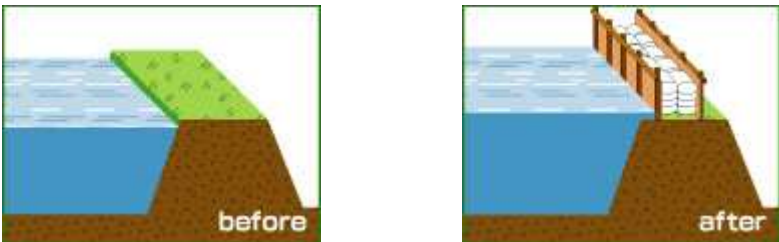
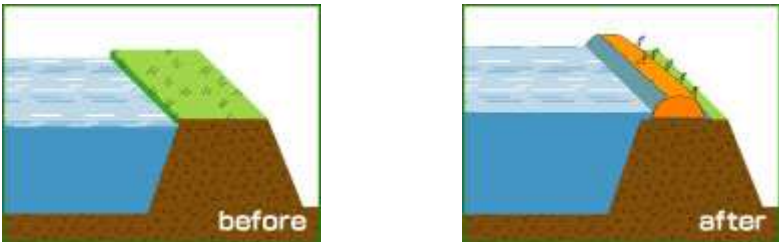
〔資料14〕 水防工法

主な水防工法は次のとおりである。

漏水対策工	月の輪工 (つきのわこう)	<p>川裏側の堤防すそ付近で漏水が発生した場合。漏水口を中心に半円状に土のうを積み水を溜め、その水圧により漏水の噴き出しをやわらげる。</p> 
	釜段工 (かまだんこう)	<p>川裏側の堤防近くの平場で漏水が発生した場合。漏水口を中心に土のうを積み水を溜め、その水圧により漏水の噴き出しをやわらげる。</p> 
亀裂対策工	五徳縫い工 (ごとくぬいこう)	<p>堤防裏側の小段やのり面に亀裂が発生した場合。亀裂を挟んで竹を結び合せ、竹の弾力を利用して、亀裂の拡大を防ぐ。</p> 
	繋ぎ縫い工 (つなぎぬいこう)	<p>堤防上やのり面に亀裂が発生した場合。亀裂箇所等に等間隔に打ち込んだ杭と杭を鉄線でつなぎ、ねじり締め、その力で亀裂の拡大を防ぐ。</p> 

	<p>木流し工 (きながしこう)</p>	<p>流水が堤防に激しくあたり洗掘しはじめている場合。堤防の面に枝葉の茂った木で覆い、流水をゆるやかにして洗掘の拡大を防ぐ。</p> 
	<p>シート張り工 (しーとばりこう)</p>	<p>堤防に洗掘が発生した場合。シートで洗掘箇所を覆い、洗掘の拡大を防ぐ。</p> 
<p>洗掘対策工</p>	<p>水防マット工 (すいぼうまっとこう)</p>	<p>堤防に洗掘が発生した場合。洗掘箇所に専用のマットをたれ下ろし、袋に砂利を詰めて、洗掘の拡大を防ぐ。</p> 
	<p>捨て石土の工 (すていしどこう)</p>	<p>流水が堤防に激しくあたり洗掘しはじめている場合。応急対策として、流されない大きさの土のう、砂利俵、石などを洗掘個所に投げ込み洗掘の拡大を防ぐ。</p> 

のり崩れ 対策工	築き直し工 (ひきまわしこう)	<p>川表の崩壊に対し、不足した堤防断面を裏のりで補強する工法である。裏のり面に杭を等間隔で打ち込み、青竹を編み付け、内部に土のうを詰める。</p>		
	杭打積土のう工 (いうちつみどのうこう)	<p>川裏側の堤防のり面が崩れたとき、またはそのおそれがある場合。のり崩れの下部に杭と土のうでおさえを築き、崩壊を防止する。</p>		
	鋼矢板打設工 (こうやいただせつこう) 捨てブロック工・ (すてぶろっくこう)	<p>川側の堤防のり面が崩れた場合。建設機械を用いて鋼矢板を打ち込み、その前面にコンクリートブロックを投入して流水の勢いを弱め、崩壊箇所を保護する。</p>		
	大型土のう工 (おおがたどのうこう)	<p>川側の堤防のり面が崩れた場合。建設機械を用いて大型土のうを崩壊箇所の前面に投入し保護する。現地での作成が可能でスピーディーに対応できる。</p>		

越水対策工	積土のう工 (つみどのうこう)	<p>洪水が堤防を越えるおそれのある場合。堤防の上に土のうを積み、堤防をかさ上げする。</p> 
	改良積土のう工 (かいりょうつみどのうこう)	<p>洪水が堤防を越えるおそれのある場合。積土のう工に対し、シートを用いて補強を加えた工法。</p> 
	せき板工 (せきいたこう)	<p>洪水が堤防を越えるおそれのある場合。堤防の上に板などでせきを築き、堤防をかさ上げする。</p> 
	越水止め水のう工 (えっすいどめすいのうこう)	<p>洪水が堤防を越えるおそれのある場合。堤防の上に専用の水マットを膨らませ、堤防をかさ上げする。スピーディーに対応できる。</p> 

参考：平成16年度円山川・但馬地域合同水防演習ホームページ